

生命医科学部 モデルカリキュラム

生命医科学科

生命医科学部 生命医科学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科は、建学の理念および卒業判定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と教育方法を取り入れた授業を実施します。また、ディプロマ・ポリシーを基盤とした教育評価（アセスメント）を行います。本学科では、卒業時に臨床検査技師の国家試験受験資格を得ることができ、さらに在学中に細胞検査士の資格認定試験を受験するコースを配置しています。本学科独自のカリキュラムでそれぞれの専門知識・技術を持ち合せた医療技術者として、さらにチーム医療の一員として質の高い医療を提供するための実践的なスキルを身につけます。4年間の教育の中で各専門職の高度な知識・技術を学ぶだけでなく、それぞれの専門性の違いや連携について、また、それらを効果的に結びつけるスキルや手法を学ぶことで、より幅広い業務に対応できる医療技術者の育成を目指します。

1. 教育内容

(1) 基礎教養教育

入学前教育ならびに初年次教育を通して、医療技術者として必要となる基礎教養科目を中心に学びます。また、臨床検査技師のライセンス取得に向けた専門基礎科目の中から、基本的医学知識として、医学概論、解剖学、生理学、生化学、さらに基本的工学知識として医用工学概論を学びます。大学共通基礎教育ならびに学科基礎教育においては、総合教育、生命倫理学、情報教育、外国語（英語）を通して、生命医科学の基盤となる基本的思考力、創造的思考力、コミュニケーション能力の育成を図ります。自身の将来の進路についての目標を探る期間の位置づけとして、臨床検査技師の心構えや責任感、自己研鑽力を修得します。

(2) 専門基礎教育

医療分野で求められる知識・技能の修得のための専門基礎教育においては、病理学、臨床化学、臨床検査総論、生化学、生理学など医学を共通分野として、臨床検査技師教育を効率良く学習します。2年次から3年次は専門知識や思考力、医療技術の基礎を固めます。4年次は自身の将来進路について目標を定め、さらなる専門知識、思考力、医療技術を深化させ、連携医療や最先端医療における実践的な応用力を修得しながら将来の進路目標を確実に実現することを目指します。臨床検査技師教育では、専門基礎科目に加えて癌の早期発見または早期診断を目的とした細胞検査士の資格取得のための臨床細胞学総論、細胞診断学特論、臨床細胞学演習を学びます。

(3) 専門教育

専門教育においては、特に臨床検査分野における検査や治療に必要な知識・技術として、臨床免疫学、薬理学、微生物学、臨床血液学、臨床生理学、医用工学等を学習します。さらに、各科目に関係する学内実習を通して、臨床検査の目的・方法・評価などが応用実践できる技能・技術を修得します。臨床実習では実際の医療現場で臨床検査分野に関する臨床実習を行い、「より良い医療人」となる礎を築きます。臨床実習前に1～3年次に修得した基礎知識の整理や手技、臨床応用への実践的概念の確認を行います。また、令和4年度から追加される医療行為のタスク・シフト/シェアに対応するため豊富な講義・実習を実践していきます。さらに4年次で開講される医科学研究入門、臨床検査学演習では臨床検査技師の国家試験取得を前提とした総合的かつ専門的な学習を実践していきます。実習終了後の臨床実習報告会では、各学生の実習報告をもとにディベート形式のディスカッションを行います。また、4年次の卒業研究はゼミ単位で、卒業研究計画、卒業研究発表、卒業論文集の作成を行います。卒業研究に並行して国家試験と認定試験の受験に備えます。

(4) チーム医療教育と総合学習教育

1年次後期にEarly Exposure（早期体験臨床実習）を導入することで、学生自身の将来像を提示し、「より良い医療人」になるために高度な倫理観を持った医療技術者としての育成を目指します。また、チーム医療の一員として、積極的に様々なチームに参画すると共に、積極的に対象者（患者さんや病院のスタッフなど）に対してのコミュニケーション能力を図る総合的な学習や演習（臨床指導や総合演習）を展開していきます。さらに、卒業研究におけるプレゼンテーションでは自ら考え、実験し、考察できる能力を獲得し、卒業後は臨床検査技師、細胞検査士、さらには生命医科学研究者として、検査および研究における専門性を提言する能力を修得・獲得できることを目指します。

2. 教育方法

医療技術者に必要な医療知識・技術を修得するために、臨床検査技師教育における実践的カリキュラムを編成します。チーム医療を学ぶと共に、チームの中での的確で正確な情報を共有し、自らもチームで中心的役割を担えるリーダーシップやリーダーに対する上向きの影響力であるフォロワーシップ能力を修得するための客観的臨床能力試験

(objective structured clinical examination : OSCE) を基盤とした学内実習および学外臨地実習を実施します。検査結果を解析・評価できる基礎的技術や能力を修得するために、各種疾患の病態を体系的に学ぶカリキュラムを実践します。本学科独自のカリキュラムシステムで学生一人ひとりに効果的・効率的な学習環境を提供します。

新入生のモチベーション向上のため、早期体験臨床学習（アーリー・エクスポージャー）を実施します。主体的な学びの力を向上させるために、アクティブラーニング（AL）を取り入れた教育方法をすべての科目で実施します。特に、実習および演習の科目においては、学生の主体的な学びの力を高めるために、連結可能な科目群においてはALを取り入れた教育を実施します。チーム医療として必要とされる「報告・連絡・相談」が適切かつ正確に行えるよう、Word、Excel、PowerPoint が活用できる実践的情報処理教育を実施します。これらの情報処理教育は、臨床関連ビッグデータの解析や評価への導入としても応用します。専門教育科目においては、教育の質の確保および学習向上のためのPDCAサイクルの実践に取り組みながら、専門性の高い知識や技術の伝達を徹底します。加えて、自ら学びたいという学生の意欲に応えるような学習環境を提供します。学生一人ひとりの学修習得度を評価するための評価試験、小テスト、レポート作成を積極的に実施し、それらを適正に評価した上で、学生一人ひとりにフィードバックします。

臨床検査技師国家試験、さらには細胞検査士に必要な専門的知識の能力確認のために、学内試験および学外模擬試験の受験を通して学生一人ひとりの修学状況のモニタリングを行い、資格取得に向けたアドバイスを行います。そのための教育を計画的に実施します。学生の授業評価の結果を真摯に受け止め、教育の質の確保およびその向上のためのPDCAサイクルの実践に積極的に取り組みます。多くの科目において臨床に則した実験実習を取り入れると共に、自学自習ができる環境を提供します。

3. 教育評価

生命医科学科が開講する諸科目においては、科目担当教員が学生一人ひとりの修学度を「九州医療科学大学GPA運用に関する要項」の規程に定める評価基準を参照しながら、また、学習ポートフォリオ（学修成果の把握である学士力）を用いて厳格に評価します。成果は科目試験で評価すると共に、各年度末には学習の習熟度を個別に把握し、習熟度が不十分と判断した場合には十分な理解が得られるよう、さらなる学習面談・指導を行います。臨床実習の成果は、実習試験、臨床実習先からのルーブリックに準じたスーパーバイザーの実習評価報告、臨床実習後報告会等で総合的に評価します。臨床検査技師の国家試験対策は、専門教育科目の到達確認として全国統一模擬試験の結果で判断します。卒業単位認定は、専門教育科目や臨床実習等の修得度を総合的に評価します。

生命医科学部生命医科学科 履修モデル【臨床検査技師を目指す学生の履修例】

1年次

科目区分		前期		後期	
大学共通基礎科目	英語共通	* 英語	2		
	情報教育	* 情報処理入門	1	データサイエンス I	1
		総合教育	コミュニケーション論	2	* QOLと人間の尊厳
学科基礎科目		* 医学概論	2	分子生物学	2
		* 生命医科学概論	2	法学	2
		化学	2		
		生物	2		
専門教育科目		* 解剖学 I	2	# 公衆衛生学	2
		* 生理学 I	2	* 生化学 I	2
		* 検査機器総論	2	# 微生物学 I	2
		* 医用工学概論	2	* 医用工学実習	2
		* 医用電気工学 I	2	* 生理学 II	2
		* 医用電気工学演習 I	1	* 生化学実習	1
		* 医用工学	2		
		* 生体計測装置学 I	2		

単位数： 46

2年次

科目区分		前期		後期	
大学共通基礎科目	総合教育	キャリア教育	2		
学科基礎科目				* 生命倫理学	2
専門教育科目		# 解剖学 II	2	# 解剖学実習	1
		# 生理学実習	2	# 病理学 II	2
		# 病理学 I	2	# 微生物学実習 I	1
		# 生化学 II	2	# 一般検査学実習	1
		# 微生物学 II	2	# 臨床血液学 II	2
		# 一般検査学	2	# 臨床免疫学 I	2
		# 臨床血液学 I	2	# 臨床検査総論	2
		# 免疫検査学	2	# 臨床検査総論実習	1
		# 臨床生理学 I	2	# 臨床生理学 II	2
		# 臨床化学 I	2	# 臨床化学 II	2
		# 遺伝子検査学	2		

単位数： 42

3年次

科目区分		前期		後期	
専門教育科目		# 臨床病態学 I	2	# 臨床病態学 II	1
		# 病理学実習	1	# 臨床血液学実習 II	1
		# 微生物学実習 II	1	# 臨床免疫学実習	1
		# 臨床血液学実習 I	1	# 臨床検査総合管理学 II	2
		# 免疫検査学実習	1	# 臨床生理学 IV	2
		# 臨床免疫学 II	2	# 臨床生理学実習 II	1
		# 臨床検査総合管理学 I	2	# 臨床化学実習	1
		# 臨床生理学 III	2	# 医療安全管理学実習	1
		# 臨床生理学実習 I	1	# 臨床薬理学	2
		# 医療安全管理学	1		
		# 臨床検査臨地実習 I (通年)	3		
		# 臨床検査臨地実習 II (通年) 3・4年で	9		

38

4年次

科目区分		前期		後期	
専門教育科目		臨床検査学演習 I	2	臨床検査学演習 II	2
		卒業研究 I (通年)	4		

単位数： 8

* は必修科目 # は臨検国試科目 \$ 臨工国試科目

基礎科目の選択は高校での学習状況により変わるため、参考として記載する。

単位数合計： 134

生命医科学部生命医科学科 履修モデル【臨床検査技師と細胞検査士を目指す学生の履修例】

1年次

科目区分		前期		後期	
大学共通基礎科目	英語共通	* 英語	2		
	情報教育	* 情報処理入門	1	データサイエンス I	1
	総合教育	コミュニケーション論	2	* QOLと人間の尊厳	2
学科基礎科目		* 医学概論	2	分子生物学	2
		* 生命医科学概論	2	法学	2
		化学	2		
		生物	2		
専門教育科目		* 解剖学 I	2	# 公衆衛生学	2
		* 生理学 I	2	* 生化学 I	2
		* 検査機器総論	2	# 微生物学 I	2
		* 医用工学概論	2	* 医用工学実習	2
		* 医用電気工学 I	2	* 生理学 II	2
		* 医用電気工学演習 I	1	* 生化学実習	1
		* 医用工学	2	臨床細胞学総論 I	2
		* 生体計測装置学 I	2		

単位数： 48

2年次

科目区分		前期		後期	
大学共通基礎科目	総合教育	キャリア教育	2		
学科基礎科目				* 生命倫理学	2
専門教育科目		#解剖学 II	2	#解剖学実習	1
		#生理学実習	2	#病理学 II	2
		#病理学 I	2	#微生物学実習 I	1
		#生化学 II	2	#一般検査学実習	1
		#微生物学 II	2	#臨床血液学 II	2
		#一般検査学	2	#臨床免疫学 I	2
		#臨床血液学 I	2	#臨床検査総論	2
		#免疫検査学	2	#臨床検査総論実習	1
		#臨床生理学 I	2	#臨床生理学 II	2
		#臨床化学 I	2	#臨床化学 II	2
		#遺伝子検査学	2	臨床細胞学総論 III	2
		臨床細胞学総論 II	2		

単位数： 46

3年次

科目区分		前期		後期	
専門教育科目		#臨床病態学 I	2	#臨床病態学 II	1
		#病理学実習	1	#臨床血液学実習 II	1
		#微生物学実習 II	1	#臨床免疫学実習	1
		#臨床血液学実習 I	1	#臨床検査総合管理学 II	2
		#免疫検査学実習	1	#臨床生理学 IV	2
		#臨床免疫学 II	2	#臨床生理学実習 II	1
		#臨床検査総合管理学 I	2	#臨床化学実習	1
		#臨床生理学 III	2	#医療安全管理学実習	1
		#臨床生理学実習 I	1	#臨床薬理学	2
		#医療安全管理学	1	臨床細胞学演習 II	1
		#臨床検査臨地実習 I (通年)	3		
		#臨床検査臨地実習 II (通年) 3・4年で	9		
		臨床細胞学演習 I	1		

40

4年次

科目区分		前期		後期	
専門教育科目		臨床検査学演習 I	2	臨床検査学演習 II	2
		細胞診断学特論 I	4	細胞診断学特論 II	4
		卒業研究 II (通年)	4		

単位数： 16

* は必修科目 #は臨検国試科目 S臨工国試科目

基礎科目の選択は高校での学習状況により変わるため、参考として記載する。

単位数合計： 150